

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年10月26日記入

基本目標	躍動し 魅力あふれる交流拠点都市をめざして	施策コード	32510
政策名(章)	第2章 質の高い都市基盤の整備を進めます	評価担当部	土木部
基本施策名(節名)	第5節 河川の整備	評価担当課	河川整備課
施策名	治水対策の推進	課長名	神保 政雄

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

浸水被害の解消と未然防止を図り、市民生活の安全性を確保するとともに、河川環境に配慮した改修事業を一級河川道保川や準用河川鳩川・八瀬川・姥川で推進する。
 県と協定を締結し進めている一級河川鳩川の姥川合流点から鳩川分水路までの区間は、平成13年に護岸改修が完了し治水安全度が向上した。また、これらの河川は、国庫補助等で改修事業を推進している。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		624,501	各構成事務事業ごとの事業費増減はあるが、最も顕著な理由は国庫補助金の減少である。
人件費		38,318	
市民一人あたりの事業費	1,212	994	
合計	746,689	662,819	

*人件費は、一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

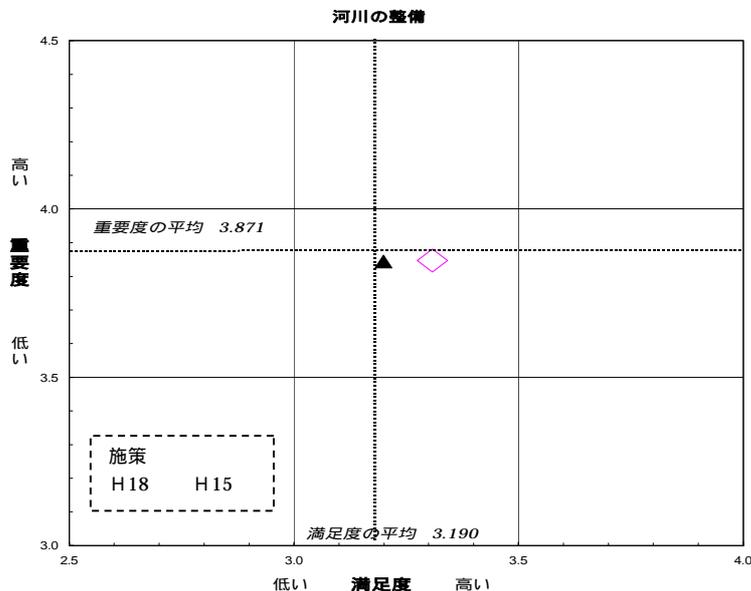
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	河川改修率	改修済延長/改修計画延長 13436m/22700m	13436m 59.2%	H16
指標2	浸水家屋発生率	浸水家屋が発生しなかった回数/降雨により発動された警戒体制の回数 H16:2回/2回	2回 100%	H16
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	273 / 279	19	192m 延べ 14045m (61.9%)	21	341m 延べ 14726m (64.9%)	計画的に河川改修工事を進め、治水対策の推進を図る。
達成率	102.2					
指標2	2 / 2	19	2回(100%)	21	2回(100%)	浸水家屋の発生率により、河川の改修工事や維持補修による治水対策の効果を確認する。
達成率	100					
指標3	#DIV/0!					
指標4	#DIV/0!					
指標5	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.308で51施策の中で11番目。
 重要度は3.847で26番目である。
 改善要望度は - 0.1007で29番目である。
 年齢別にみると、満足度、重要度ともに70歳以上でもっとも高く、40歳代でもっとも低くなっている。
 前回調査と比較すると、満足度は施策の順位が大幅に上がり、重要度は大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、40歳代を除く年代で大幅に上がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で大幅に上がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	2 1	平成17年度における河川改修率が100%を上回ったことによる。(指標1)	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	2 1	事業の投入コストは減少したが、平成14年度および平成17年度においても浸水家屋(床上、床下を含む)はなかったことから、同様の事業成果があったと考えられるため。(指標2)	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	4 1	近年の局地的な集中豪雨が各地で発生しており、治水対策の推進が望まれている状況で、本市においては河川の増水による家屋への被害がなかったなどから、市民からの満足をいただいていると思われる。	
合計		10	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 A

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	近年の気象状況を考えると今後も台風や突発的な降雨が例年以上に発生することも十分懸念されるが、河川の改修率は不十分である。
解決策	浸水被害の解消と未然の防止を図り、市民の生命や財産を守る河川改修事業の成果は上がっているが、未改修の流域では下水道の流出抑制を行わなければならない状況である。今後も市民生活の安全を確保するために、河川改修事業の拡充を図る必要がある。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

	2次評価 A
--	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

	3次評価
--	------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

